

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090600055		
法人名	社会福祉法人 なごみの社		
事業所名	みんなんち園原		
所在地	沼田市利根町園原871		
自己評価作成日	平成25年5月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は静かで自然環境に恵まれた場所に位置しているため、四季の変化を味わっていただきながら、ゆったりと生活を楽しんでいただくようにしている。市街地から距離があるため頻回ではないが、時々車を外出し買い物援助を行って、入居者が地域とのつながりを維持できるように支援している。冬季を除いては、定期的に集団や個別で外出行事を行っている。医療ニーズへの対応は、沼田クリニックと連携、隔週で医師による訪問診療を行っていることと、24時間対応を確保することにより、家族の希望があれば看取りのできる環境を整備した。訪問看護まつかぜとも契約締結して、毎週の看護師の訪問による入居者の健康管理と、介護職員への指導を依頼している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月2回開催するケース会議でサービスについて問題点や課題が提起された時には、理念に基づきケアの具体的な方向性を検討し、意見の統一を図り、全職員が共有し理念の実践につなげている。入居者が楽しみとしている食事は、栄養士の資格を持つ職員が前日に「明日は何が食べたいか」を聞き、季節の野菜を取り入れ、見た目も美しく華やかな盛り付けで、美味しく食べられるよう提供している。入居者は、そら豆やとうもろこしの皮むき、うどん打ちやきゅうりもみ、下膳や食器洗いを職員と共にし、おやつは入居者が希望するおやきやふかし饅頭を作るなど、楽しい食事の一時を過ごしている。また、入居時に家族に「看取り指針」を説明し、事業所で看取りを希望する人は、協力医・訪問看護師・家族と連携し終末期の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の生活の尊重や人と人とのふれあいを大切にすることなどを理念に盛り込んでいる。常に目の届くところに理念を掲示するとともに、日々の申し送りや全体会議で理念についての理解を深めるようにしている。	理念は、玄関・事務室・居間に掲示しており、月2回開催するケース会議でサービスについて問題点や課題が提起された時に、理念に基づきケアの具体的方向性を検討し、意見の統一を図り、全職員が共有し理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・訪問等地域密着型特養入居者との交流を行ったり、利用者と散歩に出たりしているときなど挨拶をしている。	地域の祭りを見学したり、散歩の際に地域の人達と挨拶を交わしたり、隣接する特別養護老人ホームに手品等のボランティアが訪問した時に見学したりしている。	利用者が地域の一員として暮らせるよう自治会活動などに参加すると共に、事業所も地域の一員としての関係作りをされるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り地元の職員を雇用したり、管理者が市町村からの委託型通所介護予防事業に参加し認知症という病気に対する理解をお願いするなど取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の方々に、機会をみて日常生活の状況など見ていただき、意見などを出していただければと思う。	会議は、民生委員・家族代表及び市役所職員で構成し、入居者状況や行事開催報告と今後の開催予定を報告し、意見交換を行っている。2ヶ月に1回開催しているが、「目標達成計画」は報告していない。	会議で、自己評価及び外部評価に基づき作成する「目標達成計画」を議題にあげ、そこでの意見をサービス向上に活かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は出来るだけ市担当者との連絡を行い、現状の報告や市役所の意向など協議するように努めている。	実践者研修や管理者研修受講申込書を持参した際に、サービス内容や運営規定の改正に伴う不明な点について指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で勉強会を行っている。玄関の施錠についてはナンバーキーを採用しているが屋外の散歩・外出の機会を多くもち、職員が付き添い入居者の行動を制限しないように配慮している。	職員は法人が主催する接遇等の研修会に参加し、管理者は身体拘束に関する研修を受講しケアカンファレンスで職員に伝達している。なお、帰宅願望の強い人には、外に出て気分転換を図るなどしているが、玄関ドアは暗証番号で開錠するようになっている。	身体拘束が入居者に与える身体的・精神的苦痛を理解し、入居者の安全に配慮しながら、玄関に鍵を掛けないケアを実践されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はグループの組織で行われる研修会には参加しているが、まだ職員の参加までには至らず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を中心にできるだけ具体的に説明するように心がけ、必要に応じまえて契約書等を渡し内容を検討してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の生活のなかで利用者の意見を聞くよう心がけるとともにご家族が訪問された時などにご家族の意見を聴くようにしている。	面会時に、入居者の生活状況や健康状態を伝え、家族の意見や要望を聞くよう努めている。家族からは温度や湿度の管理について要望があり、温・湿度を3時間毎に記録して入居者の健康管理に努めていることを説明し、家族の安心を得られるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族には来所時にはできるだけ面談し、要望等聞くように心がけ、出された意見はミーティング時などに職員に周知するようにしている。	管理者は個人面談を行い、職員の要望を聞く他、月末に開催する全体会議には職員が一人一課題以上を持ち寄り、行事担当職員の見直し・記録の記入方法の改正・排泄チェック表とバイタルチェック表の改善を行っている。また、改善案について職員同士で話し合い、意思統一を図った後に、管理者につなげる等運営に関し職員意見の反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一法人内、またはグループ内の管理者会議(代表含む)のなかで月1回の定例会議を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が現場に来る機会は少ないが、管理者が必要に応じて運営者に報告し、指示を受けるとともに、時に応じて開設者研修修了者に現場に足を運んでもらい現場の状況などを把握してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在地域の同業者の協議会等の参加を検討しており、その中で交流など図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に本人と会って相談する機会はあまり持てないが、できるだけ事前に家族や担当ケアマネなどに本人の状況や家族の要望など聞いてスムーズに利用者が利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの利用者の生活状況や、ご家族の要望などきいてできるだけ早く家族との信頼関係をもてるようにして、利用者が安心してホームでの生活ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに相談にみえたときは、状況をよく確認しながら必要に応じて居宅介護支援事業所と連絡を取りながら、必要なサービスに繋がられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ利用者の思いや悩み・要望などつかむように努力し、少しでもホームの利用者の存在感がもてるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時などに、利用者の状況や、利用者が口に出されている要望などあれば伝え、希望者に対しては家族との外出の機会を持つことなども依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人などが会いに来てもらった時に、継続的に交流を図ってもらえるよう働きかけたり、知人が併設のデイサービスを利用したときなども交流を図れるよう、馴染みのひとが気安く訪れることができる環境作りを心がけている。	友人が訪ねてきたり、併設のデイサービス利用者の知人と歓談したり、ドライブがてら実家や馴染みの神社に行ったりしている。また、家族と利用していた床屋や墓参りに行ったり、自治会主催の敬老会に参加したりするなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がホールにいるときは、一緒に多くの会話がもてるようにしたりして、利用者同士の円滑な関係が保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者に対しても、家族にその後の状況を聞くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、声掛けや言葉や表情などからその思いをくみ取るよう努力している。	入浴時や個室で1対1の時に、他の人の前で話づらいことなど、入居者の思いや悩み・要望を把握するよう努力し、ホームにおける入居者の存在感が持てるよう配慮している。意思表示の難しい人には、声かけをし表情や反応から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族の来所時などに少しずつ把握しながら、職員間でその情報を共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを行い、日常の細かな行動や心身状態などを注視し、一人一人の生活リズムを掴みながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員間で話し合いモニタリングを行い、往診時の医師のコメントや家族の要望を加味しながら介護計画を作成している。状況の変化に応じて介護計画の見直しをしている。	面会時に家族の要望を聞き、往診時の医師の指示事項を取り入れ、毎月行うモニタリングに基づき担当者会議で定期的見直しを行うと共に、身体状況の変化に応じ随時の変更を行っている。また、ケース記録の冒頭に介護計画の短期目標が記載され、これに沿って日々の支援内容が記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態や職員の気づきなど個々のケア記録に記載し、朝の申し送りなどで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	准看護師を配置し、利用者の体調管理には十分な配慮をしている。体調変化がみられるときには、早期受診できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域的なこともあり協働できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て定期受診は協力医療機関の往診で対応し、専門外の疾病については、職員同行にて受診、変化あるときには電話や来所時に連絡をする。	原則として、入居時に設立主体である病院の協力医に変えてもらい、隔週の往診と毎週の訪問看護により入居者の健康管理に努めている。協力病院に診療科目のない整形外科・精神科の受診は職員が対応し、結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。また訪問看護が毎週訪問。利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行えるようにしている。緊急時も24時間の連絡体制があり、介護職と看護職の協働できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供をして、利用者が安心して治療を受けられるように配慮している。MSWや医師・看護師と情報交換をして早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時と家族の面会を合わせて、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から医師・看護・本人・家族・介護職員等で話し合いを行い、方針を共有しチームで支援している。	入居時に家族に「看取り指針」を説明し、事業所で看取りを希望する人は、協力医・訪問看護師・家族と連携し、終末期の支援に取り組んでいる。医師とは緊急時の連絡網により24時間の連絡体制がとられ、診察時には家族も立ち会い、これまでに2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修の一環としてBLS研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡体制を整備するとともに、地元の消防職員・地域住民との連携も含めて対応している。非難が必要な場合は同一地域の特養も避難場所として確保できるように避難訓練を包括的に実施している。	隣接している特別養護老人ホームと合同の総合訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の立ち合いのもとに行っている。消防署の指導により今年は事業所独自に夜間を想定した避難訓練を実施したが、地域の人達に対する協力要請は行っていない。食糧と飲料水は、3日分の備蓄を行っている。	地域の人達の協力体制を整備すると共に、これからも年1回は消防署の立ち合いを依頼し、夜間を想定した避難訓練を実施されるよう期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議やミーティングの際、プライバシーや個人情報取り扱いに関して定期的に確認している。	入室の際の声かけやノックを行い、同性介助を希望する人には同性介助を行う等、誇りやプライバシーの確保に努めている。親しくなっても常に尊敬の念を持ち、言葉使いは丁寧に気持ちの良い声かけを行うよう指導している。上州の方言を使う人には職員も上州弁で会話をし、上州弁の言葉使いは強い印象を与えるが許容範囲と思いを容認している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話から、利用者本人の思いを読み取り、自己決定の場面を作っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っているが、その日の利用者の体調や天候など加味しながら柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向に沿っている。行事の時には化粧も楽しんでいただいている。理美容については、事業所に理美容師に来てもらっている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは時々利用者の意向を聞き、準備や片づけなどについては出来る人には手伝ってもらっている。昼食時にはできるだけ職員も一緒に食べるようにしている。	栄養士の資格を持つ職員が希望を聞き、季節の野菜を取り入れ、見た目も美しく華やかな盛り付けで、美味しく食べられるよう調理している。入居者は、食材の皮むき、うどん打ちやきゅうりもみ、下膳や食器洗いを職員と共に行い、おやつは入居者が希望するものを一緒に作り、職員も同じ食事を取り楽しい一時を過ごしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立。利用者の嗜好や身体状況も考慮している。個々の食事・水分摂取量をチェック、記録して、栄養バランス・水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の声掛けにより、職員の見守りのなか歯磨きを行っており、必要な場合には介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意志を重視しながら、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの座位が保たれるよう生活の中でのリハビリや機能訓練を行い、排泄記録表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時の誘導と表情やしぐさにより声をかけ、排泄に向けた自立支援を行っている。なお、羞恥心のある人には同性介助を行い見守りを外で行うなど、気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やす工夫、日々の献立に乳製品・繊維質野菜なども取り入れている。排泄パターンを確認し、便秘の予防と対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には隔日の入浴ができるように、本人の意向を確認しながら行っている。	大部分の人が一番風呂を希望するので、入浴表により順次一番風呂が使えるよう、一日おきに入浴をしている。季節により、ゆず湯やみかん湯を行っている。なお、日曜日は、デイサービスの岩風呂を使い、仲の良い人同士が温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ屋外に出て日光浴をする。また、居室から出て居間で過ごす時間を多くして、他入居者との交流時間を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬剤情報を確認している。服薬による変化は医師に情報提供している。服薬に際しては、本人に手渡しし確実に服用できているか確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした日常の作業(食事の用意や清掃・選択など)をできるだけ手伝ってもらい、利用者が役割をもつことで張り合いのある日々の支援を行っている。外に出る機会をもち、一日に変化を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望などに応じ、日課的な散歩のほか、ドライブや外食にでかける。	天気の良い日の散歩は全員で出かけ、入居者が役割と心得て車椅子を押したり、春にはヨモギを摘み天ぷらに揚げて季節感を楽しんだりしている。雪や氷の張らない春から秋は、洋服などの買い物に時々行ったり、入居者の希望を取り入れたドライブと外食を組み合わせた外出行事を月1回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者で金銭所持する方はいませんが、必要に応じて職員と買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族等に電話を希望するときは、施設の電話を使って居室でお話してもらうよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは厨房に接しており、食事を作っている様子をうかがうことができる。また花などを飾り、安らげる雰囲気を作っている。	ホールには季節の花やはり絵が飾られ、温度・湿度を3時間毎に記録して、気持ち良く過ごせるよう工夫している。中庭を囲みグループホームとデイサービスが配置され、相互交流で楽しい一時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、一人で過ごしたり気の合った利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋服筆筒は設置してあるが、そのほかのものは出来るだけ利用者の馴染みものを持参してもらい、本人の居心地良さを工夫している。	テレビや家具・縫いぐるみが持ち込まれ、孫の結婚式の写真や曾孫の写真が飾られている。また、家族の伝言が文章化して掲示され、本人に伝わるよう工夫されている。乾燥期には各室に濡れタオルを掛け湿度を保つなど、居心地良く過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべて段差解消され、廊下には手すりを設置、できるだけ安全に生活が送れるよう配慮している。		